



■研究課題名：小学生保護者用養育行動尺度作成の試みー親のマルトリートメントが子どもの心と行動に及ぼす悪影響に注目してー
■研究者名、所属：濱口佳和(人間系・心理学域)
■研究分野：発達臨床心理学
■キーワード：マルトリートメント、養育行動尺度、CBCL

【研究の背景・目的】

我が国の児童相談所における児童虐待の相談件数は増加の一途を辿り、非常に深刻な状況にある。マルトリートメント(不適切な養育)の子どもへの影響は深刻で、早期発見と早期介入が必要である。しかし、我が国では、行動理論の立場から実証された養育技法と、愛着理論や道徳性発達理論の立場から実証された適切な養育行動の両者を網羅的に測定可能な養育行動尺度がない。本研究では、児童期の親の養育行動を網羅的に測定できる信頼性・妥当性のある尺度の開発と、それによって測定される各種養育行動と子どもの心理的不適応・問題行動傾向との関連を、特にマルトリートメント傾向に注目して検討する。

【研究の概要・成果等】

先行研究の網羅的レビューにより、①児童期に発達する望ましい特性(向社会的行動、行動・感情の自己制御、道徳的価値の内在化)の形成を促進する養育行動、②攻撃行動と心理的不適応(抑うつ、不安障害傾向)を抑制する養育行動を特定し、図1に示す2群7領域からなる養育行動のグループにまとめ、60項目5件法の尺度を構成した。NTTコム・オンライン・マーケティング・ソリューションズにモニター登録している成人男女で小学生の子どもの保護者320名(母親156名、父親164名)を対象に、FDT(基本的受容、不介入、無関心)CBCL4-18(抑うつ・不安)、CSBS-P(攻撃行動、向社会的行動)と併せて実施。



図1 小学生保護者用養育行動尺度の因子構造

検証的因子分析の結果、図1のモデルの適合度は良好で(RMSEA=.076)、7個の下位尺度は全て高い信頼性を示した($.79 \leq \alpha \leq .93$)。肯定的養育行動群の4下位尺度はFDTの基本的受容と $.37 \sim .48$ の正の有意相関を、FDTの無関心と $-.17 \sim -.29$ の有意な負の相関を示した。否定的養育行動群3下位尺度は基本的受容と $-.25 \sim -.61$ の負の有意相関を、無関心と $.48 \sim .67$ の正の有意相関を示し、小学生保護者用養育行動尺度の併存的妥当性が示された。

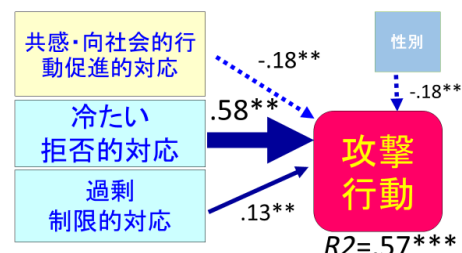


図2 保護者の養育行動と子どもの攻撃行動との関連

階層的重回帰分析の結果、子どもの性別と年齢を統制すると、マルトリートメント傾向を示す「冷たい拒否的対応」が攻撃行動に対して $.58(p<.001)$ 、抑うつ不安傾向に対して $.44(p<.001)$ という大きい β 係数を示し、子どもの心理社会的不適応と密接な関連があることが示された。

【期待される意義や波及効果等】

特に肯定的養育行動群とアサーティブネス、感情・行動の自己制御、道徳判断などとの関連を検討する必要がある。しかし「冷たい拒否的対応」尺度の攻撃行動と抑うつ・不安との関連は国内の他のどの尺度よりもパワフルで、保護者のマルトリートメント傾向を検出する上での有効性が示されている。実証的研究目的で多くの研究者間での利用される可能性があるのみならず、育児相談の現場で簡易に使用できるマルトリートメント傾向のスクリーニング尺度としての普及が期待できる。

【主な論文・著書・ホームページ等】

濱口佳和(2017). 大学生の能動的・反応的攻撃性に関する研究：尺度構成と攻撃的行動傾向との関連の検討 教育心理学研究, 65, 248-264.

濱口佳和・藤原健志(2016). 高校生の能動的・反応的攻撃性に関する研究：尺度構成, 2種類の攻撃行動との関連ならびに下位類型の検討 教育心理学研究, 64, 59-75.